

# 新年のご挨拶

マニラ日本人会会長

高野 誠司



マニラ日本人会の皆様、謹んで新春のお祝いを申し上げます。

今年 2023 年が、コロナ禍から完全復活し、皆さんと共に、日本人会の活動をより活発化できることを切に願っております。

振り返りますと、2020年初頭から全世界がコロナ禍に見舞われ、フィリピンにおいても数度のロックダウンを含め厳しい防疫措置が取られました。日本人会でも、2020年、2021年の主なイベントは全て中止となり、また多くの邦人が帰国せざるを得ない状況となり会員数も20%近く減少。図書館や診療所の運営にも支障が生じ、マニラ日本人学校（MJS）もパンデミック前450人以上在籍していた生徒数が2021年末には150人まで落ち込む等、大きな影響が出ました。その間、日本人会では邦人の皆様のコロナ対策を最優先事項として、日本政府の支援の下、フィリピン日本人商工会議所とも連携しワクチン接種の促進やPCR無料検査等を実施し、マニラにおける邦人社会のセーフティネットの役割を果たして参りました。

その後、各種行動規制やワクチン接種の効果もあり漸く感染も落ち着きをみせ始め、2022年は日本人会においても復興開始の年となりました。

2年間中止を余儀なくされていたソフトボール大会やドッジボール大会等のイベントを3年ぶりに開催。図書館や診療所もほぼ通常に近い運営を再開。MJSの生徒数も2022年末には300人を超える水準にまで回復しました。8月のカリラヤでの戦没者慰霊祭や11月の日本人総会も対面で開催することができ、今年3月には待望の盆踊り大会も開催予定です。

パンデミック前は当たり前のことだと思っていた対面でのイベントごとや懇親等が、本当は実にありがたいことなんだと改めて実感した次第です。

フィリピンでは昨年、6年ぶりに政権が交代し、その後も、政治は比較的安定し、コロナ禍で大きな落ち込みを記録した経済も7%を超える経済成長率を継続する等、力強い回復をみせています。2023年はインフレ要因もあって一本調子の経済成長が続くか不透明な面もありますが、東南アジアの中でも有数の若い世代中心の人口を擁するこの国での中長期的な成長は十分約束されたものと確信しています。

その環境下、マニラ日本人会におきましても、今後、多くの邦人の皆様がマニラに戻ってこられる（或いは新たに赴任してこられる）ことを想定し、皆様の安全を優先しながらも活動を活性化し、会員の皆様がこの地でより安全・安心に、公私に充実した生活を送ってもらえるようサービスを継続・拡充して参る所存です。

パンデミックの影響は行動制限等のマイナス面だけでなく、人々の生活様式の変化や業務の効率性の見直し等、多岐に及んでいます。日本人会では、①会員相互の親睦、②会員の安全確保・生活の向上、③日比友好の促進、の三つの柱を目的として活動していますが、その実現方法については、メルマガを通じた情報提供、オンラインでの各種手続や診察・診療等、デジタル対応を一層促進し、各種会合についても対面とWEB其々の長所をバランスさせながら実施する等、時代の変化に応じた変革を継続してゆく所存です。

最後に、マニラ日本人会は大勢のボランティアの皆様の支援に支えられて活動を継続しています。各種イベントでの裏方仕事、本

誌「まぶはい」の編集、図書館の運営支援等、皆様の熱いパッションと御貢献に改めて御礼申し上げます。会員の皆様におかれましても、ご興味があればボランティア活動に参加頂くことをお願いすると共に、日本人会をよりよくするためのアイデア等がございましたら事務局までご一報頂ければと存じます。また、各種同好会活動にも是非一度、参加してみてください。

会員の皆様からの率直な御意見に耳を澄まし、かつご協力を頂戴しながら、これからも日本人会活動をアグレッシブに進めて参りたく、改めまして宜しくお願い申し上げます。

今年1年が会員の皆様にとって、幸多き年になることを心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。